

スクールボード 《施工要領》

JAS 認定工場 JPIC - FL49

エコアシスト シリーズ

樹種	ナラ・カバ(サクラ)・ブナ・メープル
品名	スクールボード(直貼工法用)
種類	基材に合板使用(低ホルムアルデヒド)
施工方法	直貼工法
寸法	12×75・90・150×909(塗装品) 15×75・90・150×909(塗装品)

1. 運搬及び集積

- 生産工場よりコンテナもしくはトラックなどにより施工現場にむけて運搬する。
- 到着日及び時間等に付いては現場監督との打合せにより決定すること。
- 雨降り、雪などの天候の悪いときの搬入はなるべく避けること。
- 搬入は他業者の作業の妨げにならないようにし、建築物に悪影響を与えないように作業を進める事
- 集積場所についても現場監督と打合せにより場所を確保し集積する。
- 集積場所についてはフローリングに悪影響を与えないところ(漏水・熱・重量物の落下)に集積する。
- 搬入並びに集積については、必ず床工事責任者立会いとする。

2. 下地及び施工手順

- フローリングの厚み分モルタルの仕上がり面を下げ、十分に金ゴテ押さえをして表面を固くし、コテむらや不陸がないように平滑に仕上げてください。
表面が弱くザラザラした状態のときは、施工できない事があります。
- 下地がいつまでも粉を吹くような状態の時は、シープ処理(別途)等によりゴミ、ほこりが出ないようにしないと後日剥離の原因になります。
- 土間コンクリート仕上げの場合、特に巾木、パーテーションの廻りの高さなど、不陸のない様に特に注意してください。
- 下地乾燥期間は、夏場で2～3週間、冬場で3～4週間以上充分乾燥するようになるべく早く打つようにして下さい。(下地含水率15%以下)早く乾燥させるためにも、床面にシート・合板等をなるべく置かないようにし、天気の良い日はなるべく、窓をあけ空気の流通をよくしてください。
- 床暖房部分に関しては、床暖房を入れてモルタル面のクラック等確認、補修した後施工するようにする。(クラック補修は別途)
- モルタル下地については、金ブラシ付ポリッシャーにて下地の表皮についているセメントの粉等を除去し、ポリッシャーをかけ終わったら掃除機により清掃する。
清掃後両端が均一になるように割り付し墨出しをして墨に合わせて施工する。
- スラブ面の含水率は、10%以下として下さい。(目安はコンクリート打設後一ヶ月)

- スラブ面の不陸は、2m あたり 3 mm 以下になるようにして下さい。
モルタル下地で不陸が 3 mm 以上ある場合は、表面にセルフレベルング材を施工して下さい。
- 終了後は、できるだけ圧縮、養生をかねて 10 kg 前後の重しを置いてください。
- 乾式工法の接着剤は環境対応済みのエポキシ樹脂系、ウレタン樹脂系接着剤を使用してください。
- 床への塗布は歯付へらを用いる。塗布量については 450 ～ 500g/ m² が理想的であるが下地の凹凸があるときはその限りではない。施工面以外のところに接着剤を付着させないようにし、万が一付着したときは濡れたタオル等でよく拭取る事。
- 施工時の収まり等に付いては巾木にフローリング突きつけとしコーキング及びエキスパンションはとらない。ただし現場監督の指示により変更することにする。
- 床面に見切りが入るときには必ず現場監督との打合せによってフローリング施工前に取り付を行って下さい。
- 塗装品で施工するため施工後の養生及び脚立等による傷などには充分注意するようにして下さい。

3. 養生

- 湿度の高い現場の場合、施工後にフローリングが湿気を吸収して伸びや突き上げを起こすことがありますので、湿気がこもらないようにして下さい。
- また、小石、金属片、脚立などによる塗装面への傷を避けるため、できる限り養生シートなどで塗装面を保護するようにして下さい。
- 施工用接着剤がフローリング表面についた場合は、固まる前に濡れた雑巾で拭き取って下さい。(硬化してしまうと取れなくなります。)

4. お手入れ方法

- 日常のお手入れは、から拭きとし水拭きはしないで下さい。汚れがひどい時は中性洗剤を含ませた雑巾を強く絞ってから拭き取って、その後、水で濡らした雑巾を強く絞って、洗剤を拭き取って下さい。
- また、フローリング表面を長時間、水に濡らしたまま放置すると変色・シミ・ひび割れの原因になりますので、速やかに拭き取って下さい。
- 重量物(ピアノ等)をおく場合は、脚部に敷板等を敷き、重量を分散させて下さい。
- ワックスは木床用樹脂ワックスをご使用ください。
- 美装の際は、ブラシマシン等は、フローリング表面を傷つける場合がありますので、絶対使用しないで下さい。
- また、フローリングに過剰に水分がかからないように注意して下さい。伸びや突き上げ・剥離の原因になります。